

まだ大丈夫、が返納のサインかも…

クルマの運転

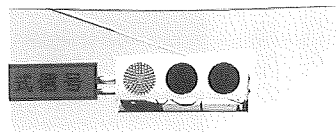
近年、高齢運転者による交通事故が社会問題化しています。ブレーキとアクセルを踏み違えた、高速道路を逆走した、信号を無視して歩行者に突っ込んだ、などといった悲惨なニュースに接すると、すぐに高齢者から免許を取り上げるべき、という厳

しい声上がるのも無理はありません。でも、仕事を続けている元気な高齢者にとっては、仕事ができなくなる、生活が維持できなくなるといった状況が予測されずし、過疎の地域では生活圏そのものがなくなる恐れもあります、また、高齢者が運

転を止めたら要介護になる可能性が2倍に高まるという研究結果もあります。法律や制度、クルマの機能や装備などなど、この問題を取り巻くさまざまな要素が絡んで、簡単には解決できそうにありません。当面は自分の身は自分で守るという観点から、自分の現在の身体能力や運転技術を正しく理解し、真摯に向き合つて対策や対応を考える必要があると思います。

ここに
ご注意

運転事故を防ぐ



●自分の現状を知る

教習所などで行われる交通安全講習会、実技研修、運転適性検査などを活用し、自分の現在の身体能力や運転技術を確認しましょう。自分の現状を知るのは怖いことですし、不安もあるかもしれませんが、事故を起こしてからでは手遅れです。真摯に向き合い、その対策や対応を考えることが自分や周りの方を守ることに繋がります。

●安全運転の基礎を実践する

安全な速度での運転、車間距離、徐行、早めのライト点灯など、初心に帰って安全運転の基礎を実践してください。また、ハンドルやブレーキ操作が遅れるかもしれない、信号や標識などを見落とすかも知れないと考えて、余裕を持った運転を心掛けてください。高齢運転者の主な事故原因は「運転操作ミス」「漫然運転」「安全不確認」とされており、過信や身勝手な判断は禁物です。

●高齢者講習の受講

運転免許更新時の「高齢者講習」や「講習予備検査」(75歳以上)が義務付けられています。必ず受講しましょう。

●高齢運転者標識(マーク)の表示

70歳以上の運転者が運転するクルマに表示できる「高齢運転者標識(マーク)」を付けましょう。新旧2種類ありますが、旧マークも当面の間使用できます。

●免許の自主返納も考慮して

ちょっとした事故や思わずヒヤリとした経験から、自分の運転に自信がなくなったり、家族から「運転が心配」と言われたら、免許の自主返納を考えてみませんか。

◆ ◆ ◆
注意すべきことが多すぎてとても全部は無理と思われるかも知れません。でも、それだけ事故や事件などに巻き込まれる、または自分で起こしてしまう可能性があるということです。面倒だから、時間がかかるからといった行動しない理由や言い訳やってくれるだろうという自分に都合のよい判断、自分は大丈夫、問題ないという過信や自分への言い聞かせ、一つのことにとられ過ぎて、確認を怠る先急ぎの傾向などなど、さまざま危険や問題を、自ら呼び込んでしまう恐れのある心理面の甘えや余裕の無さを一旦横に置いて、身体機能も含めて自分の「今」をしっかりと自覚したうえで、たとえできなくとも「やってみる」という姿勢が大切なのではないかと思えます。今回まとめた多くの注意点は、生活環境などによって該当しない部分もあると思います。でも「なるほど」と思ったことからぜひ取り組んでみてください。